

岐阜県福祉サービス第三者評価事業評価結果表

① 第三者評価機関名

特定非営利活動法人 岐阜後見センター

② 事業者情報

| | |
|---------------------------------------|-----------------------------|
| 名 称：社会福祉法人 岐阜県福祉事業団 岐阜県立ひまわりの丘第二学園 | 種別：障害者支援施設 |
| 代表者氏名：中 村 鈴 彦 | 定員（利用人数）： 30 名 |
| 所 在 地：関市桐ヶ丘3丁目2番地 | TEL 0 5 7 5 - 2 3 - 2 5 5 2 |

③ 総 評

◇特に評価の高い点

<事業計画、各種書類、マニュアルや各種記録が組織的に整備されている。>
 詳細な中・長期事業計画や単年度の事業計画を策定し、様々な法人の規程や各種マニュアルを組織的に整備している。また、ICT化を推進し、記録様式を標準化し、パソコンのネットワークシステムを整備している。

<人材育成に力を入れている。>
 ホームページに求人動画をアップする等、新たな求人チャネルを活用して人材確保に努め、職員の基本姿勢やキャリアパスを明確にし、様々な研修制度を充実させる等人材育成に力を入れている。リフレッシュ休暇の実施や出産・育児休暇の充実等、ライフワークバランスに配慮した適切な就業環境づくりに努めている。また、福利厚生センター、民間社会福祉事業従事者共済会に加入しており、独自の互助会や親睦会等を実施している。さらに、健康診断の実施や職員の相談窓口（産業医）の設置等、充実した体制を確立している。

<利用者の安全に配慮したケアに努めている。>
 施設の特徴として、法人の施設の中でも重度の利用者を受け入れている。そのため、利用者の安全に配慮した支援が行われている。たとえば、ハード面では、建物の木質化への改修が進められており、床材や壁には必要に応じてコルクを活用し、いざという時の緩衝材となっている。また、個人の尊重、プライバシーの確保のための個室化も進められている。
 一方、ソフト面では、利用者の健康維持や、事故やけがを予防する工夫が個別支援計画に盛り込まれており、利用者の個別支援項目ごとに留意点が詳細に明記された、一覧できる個別支援マニュアルが整備されている。

◇改善を求められる点

<今後とも、施設のハード面での改善に向けた取り組みに期待したい。>

施設の老朽化や児童施設からの転換による成人施設であることから、利用者の重度化に対応するため、今後、改修を必要としている箇所が各所に出てくる。平成33年度から、指定管理を継続していくかの自律経営になっていくのか未定ではあるが、利用者のさらなる安全・安心に万全を期すためにも、今後とも順次、施設のハード面での改善に向けた取り組みに期待したい。

④第三者評価結果に対する事業者のコメント

「利用者一人ひとりの個性を尊重し、行動障がいを伴う重度の知的障がい者が利用される施設として、より質の高いサービス提供を行うとともに、地域ニーズに応える」を施設目標に掲げ、個別支援計画に基づく利用者個々の行動特性に沿ったサービスをチームとして共有し、その人らしい生活を支援したことで、一定の評価を受けたものと受け止め、更なる利用者支援に繋げていきたいと考えます。

理念や基本方針、事業計画の周知については、家族へのアプローチが主になっていた点は利用者に理解していただくアプローチを、今後より多く考えていきたいと思えます。

改善を求められた施設の老朽化については、平成30年度には「あいの家」のトイレ、平成31年度には「星の家」のトイレ改修を行う他、管理者が園内を巡回し、扉の取り換え・畳の表替え・壁や床の改修など、生活に不具合な個所を順次修繕し、快適な生活空間を提供できるようにしていきたいと思えます。

障がい重いという理由で啓発活動に時間を注いでいないことを改めて認識でき、今後は地域サービスの掘り起しを含め、地域の資源としての施設機能を、広く啓発することを課題として取り組みます。

第三者評価を受診したことによって、施設のスrongポイント、ウィークポイントを再認識するとともに、一人ひとりの職員が思い違いをしている点、私どもが伝えきれていない点など、気づきに繋がった点に感謝します。

⑤評価細目の第三者評価結果 (別添)